

### 話題

#### タミフル騒動

インフルエンザに備える季節になりました。ここ数年 SARS、鳥インフルエンザ、新型インフルエンザなど新しい脅威が話題になりましたが、昨シーズンのトピックは何と言ってもタミフル騒動です。



2月に抗インフルエンザウイルス薬のタミフルを服用した10代の患者がマンションから転落死する事例があり、厚生労働省から全国の医療関係者へ注意喚起がありました。その直後にタミフル服用後の10代の患者が2階から転落して骨折したとする2症例が報告され、翌3月に原則として10代の患者にタミフルを差し控える措置が決定されました。

この過程でインフルエンザに対する日本と外国の取り組みの違いも浮き彫りになりました。日本の決定に直ちに反応したのはタミフルを製造するスイスのロシュ社です。タミフルと異常行動との因果関係は証明されていない、世界中どこでも1歳以上の患者に投与することが認められている、と事件との関係を全面的に否定しました。ロシュ社によれば、毎年世界で生産されるタミフルの80%が日本で使用され、残りの大半は米国で兵士用に使われ、僅か3%が他の世界各国で使用されているのです。

例えば、ロシュ社のあるスイスではインフルエンザに罹った子供に薬を投与する家庭はほとんどなく、タミフルに保険が効かないこともあり、大人でも希望する人はほとんどいないそうです。すなわち、日本以外ではインフルエンザに対して直ちに抗ウイルス薬を使用しない実態が明らかになりました。

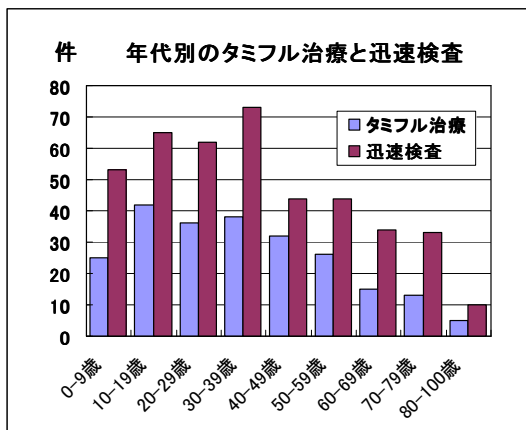
健康な人ならばインフルエンザに罹っても3-7日間でウイルスは体内から消えます。その間の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛には安静休養と必要に応じた解熱剤投与で十分に対応できます。そもそも10年前まで承認された抗ウイルス薬はありませんでした。1998年暮れに初めて塩酸アマンタジンがA型インフルエンザの特効薬として承認され、誰もがその効果に驚きました。1999年1月にはA型インフルエンザウイルス迅速診断キットが発売され、15分で診断確定が可能となりました。さらに新しい診断キットではB型も判定できるようになりました。



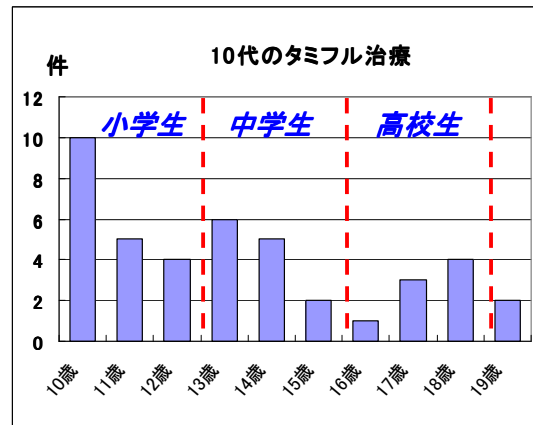
そして、2001年2月にA型とB型に有効な抗ウイルス薬リレンザとタミフルが発売されました。リレンザが吸入薬で多くの患者さんには不慣れであったのに対し、タミフルは経口カプセルで利便性が高く、顆粒も発売されたので爆発的に使われるような

りました。効果も優れ、多くの患者が服用後 1-2 時間で熱が引くのを経験しました。副作用は約 5%に嘔気や下痢が報告されましたが実際に問題となるケースはまれでした。ここに見事なインフルエンザ診療の日本システムが完成したのです。すなわち、冬に高熱が出たら病院へかかる、上気道炎を確認する、迅速検査で診断する、タミフルを服用する。日本全国でこのシステムが回転し、その結果世界中で生産される迅速診断キットの 9 割とタミフルの 8 割が日本で消費される状況となりました。世界から見れば、日本では過剰なインフルエンザ診療が行われていることとなります。一方で、医学の進歩の成果を国民皆保険制度の下で日本人だけが享受しているとも言えます。そして冒頭のタミフル騒動も日本だけの問題と見做されているのです。

ここで、当院のインフルエンザ診療の実態を見てみましょう。下の図は過去 3 年間に当院で実施したタミフル治療と迅速検査を年代別に見たものです。



まず、症状からインフルエンザが疑われ迅速検査を実施された患者のうち、診断が確定されてタミフルが投与されたのは約半数(55%)でした。次に、若い世代と比べて60歳以上で発病が減っていました。これは若い世代は職場や学校など集団の中でウイルスに接触する機会が多いこと、65歳以上では公費補助のある予防接種が浸透していることなどが要因と考えられます。さらに、「タミフル騒動」の10代に最もタミフル治療件数の多いことがわかりました。ここをもう少し詳しく見てみましょう。



グラフを見ると、タミフル治療は10代後半よりも10代前半に多く、最も多かったのは10歳の小学校4年生でした。10代前半の子供達は集団で過ごす時間が長いので感染が広がりやすいのでしょう。しかし、今シーズンからはもうタミフルを使えません。10代対策を含めた新しい診療方針が必要です。

## 当院のインフルエンザ診療方針

日本システムとタミフル騒動と当院の実状を踏まえて、当院では今シーズンの新しいインフルエンザ診療方針を決めました。高熱の患者さんで上気道炎の所見が認められた場合には、希望があればインフルエンザ迅速診断検査を実施します。

- インフルエンザと診断された 20 歳以上の患者さんには希望によりタミフルを処方します。
- 10 歳以上 20 歳未満の患者さんにタミフルは処方しません。受験や仕事など重大な理由があり一日も早く回復したい場合にはリレンザ、あるいは A 型ならアマンタジンを処方します。
- 10 歳未満の患者さんには希望によりタミフルを処方します。その場合、保護者に 2 日間小児が一人にならないよう配慮してもらいます。

インフルエンザに対する最善の策は予防です。予防接種もありますが、シーズンにはマスク着用、手洗いとうがいの徹底でウイルスの体内への進入を防ぎ、バランスの良い食事と十分な睡眠で体調を整えて免疫力を維持しておくことが最も肝要です。